

兵庫県のスジコガネ

高橋 寿郎*

スジコガネ類は、一般によく知られているマメコガネ、ドウガネブイブイ、コガネムシなど害虫として有名な虫も含む、比較的個体数の多いなじみのあるグループである。兵庫県下のこの類については若干の報告(1953, 1957, 1967)を行ったが、その後かなりの期間が過ぎ数多くの新知見も加わり、またそれ以後分類の進展があったりして、改めて現時点でまとめておいた方がよいと考えるので、ここに発表させて頂くことにした。

Subfamily Rutelinae スジコガネ亜科

Tribe Adoretine コイチャコガネ族

1 *Adoretini* (*Lepadoretus*) *tenuimaculatus* WATERHOUSE, 1875 コイチャコガネ
本種は Waterhouse が、日本に極めて普通であるとして新種記載した (*Trans. Ent. Soc. London*, PP. 112-113, 1875)。タイアの指定はない。その後 Heyden は、Lenz が Hiogo で採集した甲虫のなかに、本種を報告している (*Deut. Ent. Zeit.*, XXI, P. 356, 1877)。さらに Heyden は、Rein の 1874 ~ 1875 年の日本での甲虫採集記録のなかに、Mino 産を報告している (*Deut. Ent. Zeit.*, XXIII, Heft. II, P. 346, 1879)。その後 Schönfeldt は日本産甲虫目録のなかで "Hiogo, Tokio, Echizen, Mino" を記録している (*Jahrb. Nassou. Ver. Naturk.*, XL, P. 109, 1887)。

分布はかなり広く、本州、四国、九州、済州島、朝鮮、台湾、中国、ハワイ、ビルマが知られている。北海道には分布していないようである。大体この仲間は南の方に多くいるようで、Arrow の *Fauna British India*, Lamell, Part II, 1917 にも多くの種が解説されている。日本でも南西諸島(西表島、石垣島、宮古島、波照間島、与那国島)に行くと、*A. (s. str.) falciungulatus* NOMURA シュミセンコイチャコガネ、*A. (Chaetadoretus) formosanus* OHAUS タイワンコイチャコガネ、*A. (Lepadoretus) sinicus* BURMEISTER シナコイチャコガネの3種を産する。何れも標本を所有しているが、コイチャコガネによく似ている種である(最近小林裕和氏は日本、台湾産のコイチャコガネ属の分類学的報文を發

* 現住所 神戸市

兵庫県の スジコガネ

表され、琉球列島に分布し従来台湾に産するものと同一種とされていた *A. formosanus* を、この地域固有の新亜種として *ssp. sakishimanus* H. KOBAYASHI と命名された。他に台湾産2新種、1新記録種も報告されている。 (*New Entomol.*, 31(3), PP. 1-10, 1982)。

本種は種々の植物を食害するようで、鈴木氏はその食草19科43種をとりまとめて報告している (中部昆虫同好会々報, No 8, PP. 28-30, 1955)。また最近は芝草に害を与えるものとして、その発生経過についての研究が発表されている (芝草研究, 7(2), 1978., 芝生の病害虫と雑草, 1981)。その他生活史について、前記の鈴木氏は概略をまとめている (中部昆虫同好会々報, No 2, PP. 7-8, 1954)。成虫越冬するようで、一年中ほとんどの期間成虫がいるようである。

なお、森内氏は本種が糞を食するのではないかとの報告を行っているが (*Amateur Entomology*, 4(4), P. 6, 1954), 筆者も糞虫採集の際に本種を糞の下から見出した経験が一、二度ある。糞を食するかどうかはわからなかったが、或いはその様な食性もあるのかも知れない。

兵庫下でも極めて広範囲に見出される種であるから、産地についての記録はここでは省きたい。

Tribe Anomalini スジコガネ族

2 *Popillia japonica* NEWMAN, 1838 マメコガネ

本種の原記載は W. Junk の *Coleopt. Cat.* (Pars., 66, P. 134, 1916) によると *Ann. Mag. Nat. Hist.*, 2, II, P. 337, 1838 で、学名のごとく日本産での記載とある (中根博士もそのように記しておられる, 1966)。岡山大学農業生物研究所付属図書館に上記原記載のコピーを依頼したところ、その文献の該当頁にマメコガネの記載のない旨の返事があった。Waterhouse の *On the Lamellicorn Coleoptera of Japan* (*Trans. Ent. Soc. Lond. Part I*, P. 112, pl. III, 1875) のなかでも、また G. Kraatz の *Popillia* 属の総説の *Monographische Revision der Ruteliden-Gattung Popillia* Serville (*Deut. Ent. Zeit.*, Heft II, P. 257, 1892) でも、本種の原記載は Newman, *A descriptive list of the Species of Popillia in Cabinet of the Rey, F.W. Hape* (*Trans. Ent. Soc. Lond.*, III, PP. 32-50, 1841) になっている。多くの *Popillia* 属の新種記載があるが、P. 43 に *Popillia japonica*, Japonia (Nippon, Jesso, Nagasaki) が記載されている。その後日本からは Waterhouse (1843, 1875), Motschulsky (1844) の記録があり、Heyden (1879) は、Mino, Hiogo, Echizen を産地として掲げている。

新島、木下両博士は日本各地産(13ヶ所)をもって図説された(1923)。そのなかで、北アメリカに数年前から侵入し害を与えつつあるとの報告がある。

よく知られているように個体数も極めて多い。分布は北海道、本州、四国、九州、対島、北米である。

食草は多く知られている。飯田信三氏は草本14種、木本41種を掲げている(昆虫研究, 1(2), PP. 38-39, 1937)。生活史も割合調べられている種であり、桑山博士の“コガネムシ類概説”(1937)に詳しくまとめられている。最近では“芝生の病害虫と雑草”(1979)にもまとめられている。

天敵としてマメコガネヤドリバエ、アカアシチビトガリヒメバチ、マメコガネヤドリコバチの一次、二次寄生種が知られている。

この属では奄美大島から南に4種が分布することが知られている。

兵庫県下には広く極めて普通に産するので、記録は一切省略する。

3 *Proagopertha pubicollis* (WATERHOUSE, 1875) ナラノチャイロコガネ

本種はWaterhouseによりNagasaki, Hiogo産で*Anomala*属として新種記載された(Trans. Ent. Soc. Lond., P.III, 1875)。その後HeydenはMino, Kyushu(Deut. Ent. Zeit., XXIII, P.344, 1879), LewisはNagasaki, Kobe, Miyanoshita, Nikko, Yokohama(Ann. Mag. Nat. Hist., XVI(6), P.402, 1895)を記録している。新島、木下両博士は仙台、東京、熊本を産地として*Phyllopertha*属で図説をされた(1923)。沢田博士はこの類の総説を発表され、日本の各地の産をまとめておられる(日本の甲虫, 4(1), PP. 44-45, 1941)。

分布は本州、四国、九州であり、沖縄には別種*P. ohbayashii* NOMURA フタモンコガネを産する。

県下では大変個体数の少ない種である。データを見て頂ければわかる様に成虫の出現が4, 5月の早春のみで、一般に目につく機会が少ないからではないかと考えられる。したがって県下にどの様に分布しているか(恐らく広く分布しているのではないかと思うが)よくわからない種である。

クヌギ類をはじめとした広葉樹の葉を食する。

産地*: 伊丹市猪名寺(1♂, 3♀♀, 15-IV-1956)。Hiogo [Waterhouse, 1875, Lewis, 1895]。神戸市鳥原(1♀, 29-IV-1969, 1♂, 9-V-1976)。須磨[北村, 1937]。米上郡市島(1♂, 22-IV-1956, 2♀♀, 29-IV-1956, Yamamoto leg.)。

* 産地で「」のものは文献からの引用。()のものは筆者採集もしくは恵与を受けたもので現在筆者標本所有を表わす。

4 *Phyllopertha diversa* WATERHOUSE, 1875 ウスチャコガネ

本種は Waterhouse により 5 月に長崎で採集された♂♀で図示して新種記載されている。新島, 木下両博士の図説 (1923), 沢田博士の総説 (1941) がある。♂♀によって色彩, 体形が異なる。また全体が黒色になる個体が割合得られる。この黒色のものについて, 新島, 木下両博士は *P. kiotoensis* と命名された (1923)。勿論本種のことである。

本種の生態については, 奥富, 吉田両氏の報文 (芝草研究, 5(2), 1976), 細辻, 吉田氏の“芝生の病害虫と雑草” (1979) に詳しい。

本種も兵庫県下では広く分布している。記録を御覧頂ければわかるように, 成虫は 5 月に出現することがはっきりしている。上記の奥富, 吉田氏の研究でも成虫の出現期は 4, 5 月になっている。したがって一般にはあまり知られていないコガネムシかもしれない。

産地: 津名郡常隆寺山 (1♂, 20-IV-1974)。津名町大町, 大田ダム [堀田, 1974]。川西市多田 (1♂, 18-V-1952)。大和, 庵部 [仲田, 1978]。西宮市香櫨園 (1♀, 5-V-1942)。神戸市 [沢田, 1941]。御影 [関, 1933]。摩耶山 [増田, 橋本, 1941]。山の街 (1♂, 5♀♀, 17-V-1953, 9♂♂, 1♀, 5-V-1954, 6♂♂, 7♀♀, 5-VI-1955)。箕谷 (3♀♀, 9-V-1948, 1♂, 2♀♀, 16-V-1948)。大池 (1♂, 1♀, 14-V-1961)。烏原 (1♀, 11-V-1974)。藍那 (3♀♀, 22-V-1978, 1♂, 20-V-1979, 5♂♂, 18-V-1980)。播磨 [新島, 木下, 1923]。加古川市加古川 (2♂♂, 1♀, 22-IV-1954)。多可郡白山 (1♂, 3-V-1973)。三谷 (1♂, 1♀, 24-V-1975)。神崎郡大河内町川上 (1♂, 1♀, 17-V-1977)。相生市三濃山 (1♂, 7-V-1972, 4♂♂, 6-V-1973, 1♀, 12-V-1974, 2♂♂, 2♀♀, 18-V-1974)。氷上郡 [山本, 1958]。相原 (1♂, 6-V-1951)。豊岡市愛宕山 [高橋, 1951]。城崎郡城崎 (3♀♀, 17-V-1970)。

5 *Phyllopertha intermixta* (ARROW, 1913) アオウスチャコガネ

本種は Arrow により札幌, 日光, 修禅寺産♂♀によって新種記載された (*Ann. Mag. Nat. Hist.*, 8, xii, pp.403-404, 1913)。その後 Waterhouse は Chowsan, Manchuria, Hakodadi を産地に *P. horticola* を記録した (*Trans. Ent. Soc. Lond.*, p.106, 1875) が, この種のことである。また Lewis も *P. horticola* var. として *P. yezoensis* なる種を記録している (*Cat. Col. Jap. Arch.*, No.974, p.16, 1879)。これも本種のことになる。新島, 木下両博士は丹波産で本種を図説された (1923)。ところが同一論文のなかで北海道 (苫小牧) 産で *P. fuscata* なる新種を発表しておられる。これも本種と同一種である (黒色のもの)。沢田博士はこの仲間の総

説でこれらを整理された(1941)。

本種の分布は北海道、本州、四国、九州である。北海道には多く、本州では山地性のように普通に見られる種ではない。中国地方では伯耆大山に大変多くいることが知られている。

兵庫県下では扇ノ山、氷ノ山と赤西で採集されている。個体数はそれほど多くないのか仲々採れない。恐らくこのあたりの山地帯には広く分布していると考えられるのだが、より一層詳しく調べてみないとよくわからない。

産地：穴栗郡赤西(1♂, 3-VI-1979), 養父郡坂の谷(2♀♀, 22-VII-1979), 氷ノ山(1♂, 27-VII-1954, 1♀, 27-VII-1956), 美方郡扇ノ山〔湯浅, 1963, 辻, 湯浅, 1972〕。

6 *Phyllopertha irregularis* WATERHOUSE, 1875 キスジコガネ

本種は5月長崎産、河内産で Waterhouse が新種記載した(Trans. Ent. Soc. Lond., P107, pl. III, f. 4, 1875)。新島、木下両博士はその後京都、大阪産で図説された(1923)。沢田博士もこの類の総説で日本各地の産地を記録された(1941)。

分布は本州、四国、九州で各地に普通に産する種である。兵庫県下でも広く分布し、普通に見られる。

上翅の中央に黄褐色の縦条があるのが一応基本的なものである。これがキスジコガネの和名の由来になっていると思うが、時には全体暗緑色または赤紫色のものもあり、全く黄褐色の個体も案外いる。その場合でも前胸背は緑色を呈しており両側は黄褐色を呈する。

産地：洲本市先山〔堀田, 1979〕, 川辺郡猪名川町上阿古谷, 木間生〔仲田, 1978〕, 川西市笹部, 横地〔仲田, 1978〕, 神戸市六甲山〔Sawada, 1941〕, (1♂, 8-V-1955), 摩耶山〔増田, 橋本, 1941〕, 布引(1♀, 13-V-1961, Torii leg.), 小部(3♂♂, 10-V-1942), 山の街(1♀, 5-V-1949, 5♂♂, 3♀♀, 22-V-1949, 1♂, 1♀, 30-IV-1950, 2♂♂, 1♀, 12-V-1950, 3♂♂, 1♀, 17-V-1953, 2♂♂, 28-V-1953, 4♂♂, 16-V-1954), 箕谷(4♂♂, 30-V-1943, 6♂♂, 7♀♀, 9-V-1948, 10♂♂, 4♀♀, 16-V-1948, 1♂, 6♀♀, 23-V-1948, 1♂, 1♀, 11-V-1952, 1♀, 16-V-1954), 谷上(1♂, 7-V-1964), 西垂水(13-V-1961, Torii leg.), 大山寺(1ex., 29-IV-1973), 藍那(1ex., 20-V-1979, 4exs., 18-V-1980), 飾磨郡家島〔上田, 1981〕, 多可郡三谷(1ex., 24-V-1975, 3exs., 8-VI-1975), 神崎郡大河内町川上(4exs., 4-VI-1977, 1ex., 18-VI-1977), 相生市三濃山(9exs., 6-V-1972, 2exs., 12-V-1974, 7exs., 18-V-1974, 1ex., 1-VI-1974), 穴栗郡福知溪谷(1ex., 3-VI-1975, M. Yuma leg.), 音水(1ex., 3-VI-1975, M. Yuma leg.), 赤西(1ex., 3-VI-1979), 氷上郡〔山本,

1958], 妙高山 (1ex., 13-VII-1958), 青垣町神楽 (1♂, 1♀, 1-VI-1951, 1ex., 11-V-1958), 養父郡米ノ山 (1ex., 27-VII-1954), [中根, 1973, 高橋, 1959], 美方郡扇ノ山 [高橋, 1960, 1975, 辻, 岸田, 1972], (1ex., 10-VI-1973).

7 *Blitopertha conspurcata* (HAROLD, 1878) カタモンコガネ

本種は、山口県萩に 1872~1875 年滞在した藩校明倫館教師 Hiller, Reinhold が萩で採集した に基づいて、E.v. Harold が *Phyllopertha conspurcata* として新種記載した種である (Deut. Ent. Zeit., XXI, Heft. II, PP. 71-72, 1877). その後 Heyden は Mino, Echizen, Hiogo, Kyushu を記録した (Deut. Ent. Zeit., XXIII, P. 342, 1879). 次いで Lewis も Nagasaki, Hiogo, Hagi, Tokio から記録している (Ann. Mag. Nat. Hist., Ser. 6, XVI, P. 400, 1895). 新島, 木下両博士は本種を図説されたが (1923), 同時に京都産で *P. kiotoensis* なる種を記載された。これは本種の早に該当するものである。また Waterhouse が "Nagasaki, in May" として *P. arenaria* なる種を記録している (Trans. Ent. Soc. Lond., P. 108, 1875), これも本種に該当する。

兵庫県下では初夏の頃普通にいるが、どちらかといえは平地性の種のように山地帯での記録が少ない。詳しい生態の報告は知らないが、幼虫は土中で根を食べる。♂の触角の片状部は柄部と同長かまたはより短い。日本全土に分布している。

産地: 津名郡開鐘 (2♂♂, 5♀♀, 24-V-1942), 川辺郡猪名川町木間生 [仲田, 1978], 川西市笹部 [仲田, 1978], 西宮市香櫨園 (1♂, 2♀♀, 12-V-1941), Hiogo [Heyden, 1879, Lewis, 1895], 神戸 [沢田, 1941], 布引 (1♂, 13-V-1961, Torii leg.), 鳥原 (1♀, 2-VI-1939, 1♂, 1♀, 22-V-1939, 2♀♀, 5-VI-1939, 1♀, 1-VI-1941, 3♂♂, 7♀♀, 24-V-1953, 1♂, 24-V-1980, 1♀, 1-VI-1980), 西垂水 [鳥居, 1962], 米上郡妙高山 (2exs., 13-VII-1958, Takahashi leg.), 揖保郡 [大上, 1907].

8 *Blitopertha ohdaiensis* (SAWADA, 1941) オオダイセマダラコガネ

本種は種名, 和名が示すように, 沢田博士が大台ヶ原産の標本に基づいて *Phyllopertha* 属として記載された種である (Nippon no Kôchu, IV(1), PP. 49-50, pl. II, figs. 5, 20; pl. III, figs. 1, 2; pl. V, fig. 7, 1941). セマダラコガネに大変よく似ているが, 交尾器の形態は明らかに異なる。

最近石田正明氏は, 本種とウスキイロコガネ, セマダラコガネ 3種の区別について報告しておられる (北九州の昆虫, 28(2), PP. 87-91, p. 10, 1981).

兵庫県下での分布は北部山地での記録もあるが、あまりよくわからない。
筆者の手許にある石田 裕氏採集の六甲山産1♂の交尾器は沢田博士図示のものと同じである。

生態などについての報告は見当らない。

産地：神戸市六甲山（1♂, 15-VII-1956, H. Ishida leg.）, 金剛童子山（1♂, 24-VI-1956, T. Muranishi leg.）, 氷上郡神楽村（1♀, 2-VIII-1954, Y. Yamamoto leg.）, 粟鹿峯（1ex., 2-VIII-1954）, [山本, 1958], 養父郡米ノ山〔高橋, 1978, 1981〕, 美方郡扇ノ山〔湯浅, 1960, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1981〕。

9 *Blitopertha orientalis* (WATERHOUSE, 1875) セマダラコガネ

本種はWaterhouseがKawachi, Nagasaki, Hakodadi 5, 6月に普通として、*Phyllopertha*属で記載された（Trans. Ent. Soc. Lond., P. 108, 1875）。

色彩斑紋に変化が多く、Waterhouseも新種記載のところで変異をろつに分けて記している。

新島, 木下両博士は黒色型に *P. tambaensis* なる名を与え、淡色型は *P. pallidipennis* と同定しておられる（1923）。確かにこの種の斑紋の変化は多様で、両極端のものでは別種と考えられる形態をしている。全国的にも普通であるし、兵庫県下でも極めて普通に産する種である。

広葉樹のほか多くの植物の葉を食べる。幼虫は土中で根を食べる。芝、農作物、苗木などを害することがあり、卵から成虫までの期間は1~2年といわれている。普通種でありながら生態に関する詳しい報文が見当らない。

産地：津名郡佐野〔堀田, 1953〕, 洲本市安乎町〔堀田, 1974〕, 先山〔堀田, 1974, 1976, 久松, 1974〕, 三熊山〔Hirochi et al., 1977〕, 三原郡論鶴羽山〔堀田, 1974, 久松, 1974〕, 川辺郡猪名川町上阿古谷〔仲田, 1978〕, 川西市見野〔仲田, 1978〕, 笹部（1ex., 26-VI-1958）, [仲田, 1978], 大和〔仲田, 1978〕, 多田（1♀, 19-VI-1938, 1♀, 22-VI-1942）, 宝塚市武田尾（2♂♂, 25-VII-1954）, Hiogo〔Heyden, 1879〕, 神戸市六甲山（2♂♂, 25-VII-1939, 1♀, 10-VII-1955）, 摩耶山〔増田, 橋本, 1941〕, 布引（2♂♂, 20-VII-1942）, 二十歩（1♂, 26-VI-1955）, 鳥原（1♂, 16-VI-1938, 1♂, 2♀♀, 10-VII-1938, 1♂, 13-VII-1938, 1♀, 20-VI-1939, 1♂, 1♀, 24-VI-1939, 3♀♀, 29-VI-1939, 1♂, 30-VI-1939, 1♂, 3♀♀, 2-VII-1939, 2♂♂, 2♀♀, 5-VII-1939, 1♀, 4-VII-1939, 7♂♂, 1♀, 25-VII-1948, 3exs., 12-VI-1972, 1ex., 27-VI-1976, 1ex., 14-VI-1980, 1ex., 11-VII-1981）, 山の街（2♂♂, 10-VII-1949）, 金剛童子山（2♂♂, 1♀, 24-VI-1956）, 藍那（1ex., 19-VI-1978）, 白川（1ex., 26-VII-1978）, 押部町木見（1ex., 23-VI-1980, 1ex., 10-VII-1980）, 須磨

〔北村, 1939〕, 播磨〔新島, 木下, 1923〕, 明石市明石公園 (1ex., 29-VI-1975, 1ex., 3-VII-1976), 高砂市伊保町〔森田, 1974〕, 多可郡鳥羽 (3exs., 5-VII-1975), 飾磨郡夢前町我孫子 (1ex., 5-VIII-1979), 家島〔上田, 1981〕, 朝来郡生野 (7♂♂, 4♀♀, 8-VII-1956), 揖保郡〔大上, 1907〕, 穴栗郡水谷 (7exs., 17-VII-1981), 音水 (5exs., 20-VI-1959, 2exs., 25-VI-1970, 6exs., 16-VII-1972, 1ex., 15-VII-1973), 赤西 (1ex., 3-VI-1979), 坂の谷 (2exs., 22-VII-1979), 氷上郡〔山本, 1958〕, 新井 (1♂, 28-VII-1952), 出石郡神美村〔北村, 1937〕, 出石町松ヶ枝〔高橋, 1963, 1981〕, 豊岡市京町〔高橋, 1975, 1981〕, 城崎郡三川山〔高橋, 1975, 1981〕, 養父郡鉢伏山〔高橋, 1975, 1981〕, 氷ノ山 (5♂♂, 3♀♀, 2-VIII-1953, 8♂♂, 4♀♀, 2-VIII-1953, 18♂♂, 4♀♀, 21-VII-1955, 2♂♂, 3♀♀, 25-VII-1955, 23♂♂, 26♀♀, 27-VII-1956), 美方郡扇ノ山〔高橋, 1959, 1975, 1981, 湯浅, 1960, 辻, 岩田, 1972〕, (1ex., 5-VII-1973).

10 *Mimela difficillilis* (WATERHOUSE, 1875) ツヤコガネ

本種は Waterhouse により Japan を産地に *Anomala* 属で記載された (Trans. Ent. Soc. Lond., P. 11, 1875).

Harold は Japan (1877) から, Heyden は Kioto, Minoo (1879), Lewis は Kobe, Nikko, Chiuzenji (1895) からそれぞれ記録した。

新島, 木下両博士は Ohaus が Yokohama から記載した *Anomala lenzi* OHAUS をレンチコガネとして図説された (1923) が, 実は本種のことである。

分布は日本全国にわたっているが, それほど普通にいる種ではなさそうである。兵庫県でも分布は広いがそう多く得られない。但し六甲山には多く産する場所があった。

生態については今のところ詳しい報文が見当らない。1976年野村 鎮氏は日本, 台湾産 *Mimela* 属の分類学的論文を発表, そのなかで“本種の日本で”の分布も示されている (Ent. Rev. Japan, 29(1, 2), P. 40, pl. 4, fig. 14, 1976).

産地: 川西市見野〔仲田, 1978〕, Hiogo〔Lewis, 1895〕, 神戸市六甲山 (1♂, 1-VII-1953, 13♂♂, 5♀♀, 10-VII-1955), 〔野村, 1976〕, 朝来郡段ヶ峰 (1♂, 7-VIII-1953, Yamamoto leg.), 神崎郡大河内町砥, 峰 (1♂, 15-VII-1977), 穴栗郡水谷 (1♂, 17-VII-1981), 養父郡氷ノ山 (1♀, 22-VII-1953, Yamamoto leg., 1♀, 12-VII-1955, Yoshizaka leg.), 〔野村, 1976, 高橋, 1981〕, 美方郡扇ノ山〔湯浅, 1960, 辻, 岸田, 1972, 野村, 1976, 高橋, 1981〕。

11 *Mimela flavilabris* (WATERHOUSE, 1875) ヒメスジコガネ

Waterhouse が *Anomala* 属で *A. testaceipes* に似る種とし、産地を Japan として記載した (*Trans. Ent. Soc. Lond.*, p.110, 1875). 新島, 木下西博士は *Mimela* 属の種として記載された (1923. 産地もかなり記録しておられる). 変種もあるが変化は割合あるようなので、分ける必要もないと考えられる.

6月ごろから出現, 広葉樹の葉を食べる. 幼虫は土中で根を食べて育つ.

兵庫県下でも平地にはあまりいないが, 広く分布していて個体数も結構多い.

産地: 洲本市安乎町〔堀田, 1974〕, 先山〔堀田, 1976〕, 川辺郡猪名川町木間生〔仲田, 1978〕, 川西市一の鳥居 (2♂♂, 1♀, 22-VI-1953), 花折橋付近〔仲田, 1978〕, 笹部〔仲田, 1978〕, 神戸市六甲山 (31♂♂, 42♀♀, 10-VII-1955), 〔野村, 1976〕, 摩耶山 (2♂♂, 21-VII-1955, 2♂♂, 27-VII-1957, Tsukaguchi leg.), 教育植物園 (1ex., 9-VII-1961), 山の街 (1♂, 2♀♀, 12-VI-1949), 藍那 (1ex., 14-VII-1978, 1♀, 9-VIII-1979), 多可郡三谷 (6exs., 13-VII-1975, 12exs., 2-VIII-1975), 朝来郡生野 (5♂♂, 2♀♀, 8-VII-1956), 神崎郡大河内町川上 (7exs., 15-VII-1977, 4exs., 23-VII-1977), 飾磨郡夢前町我孫子 (5exs., 1-VIII-1980), 揖保郡〔大上, 1907〕, 相生市三濃山 (3exs., 20-VII-1974, 2exs., 27-VII-1974), 宍粟郡波賀町水谷 (5exs., 17-VII-1981), 音水 (2exs., 16-VII-1972, 1ex., 30-VII-1972, 2exs., 15-VII-1973), 氷上郡妙見山 (1♀, 27-VII-1953), 神楽村 (1♀, 2-VIII-1952, Yamamoto leg.), 城崎郡三川山〔高橋, 1975, 1981〕, 養父郡鉢伏山〔高橋, 1975, 1981〕, 米ノ山 (1♂, 1♀, 25-VII-1955, 1♂, 27-VII-1954, 7♂♂, 3♀♀, 27-VII-1956, 3♂♂, 3♀♀, 25-VII-1959, 3exs., 17-VII-1971, K.Tsuji leg.), 〔野村, 1976〕, 美方郡扇ノ山〔湯浅, 1960, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975, 1981〕.

12 *Mimela splendens* (GYLLENHAL, 1817) コガネムシ

1835年 F.W.Hope は "This beautiful insect I received from De Haan under the name of *lucidula*" として *Mimela lucidula* なる新種記載を日本からした (*Trans. Ent. Soc. Lond.*, I, part II, pp.113-114, 1835). このコガネムシが日本で一番初めに名前を与えられたコガネムシだと考えられる. ただ残念なことに, この種は中国原産の *M. splendens* GRILL. (*Melontha*) (*in Schönh. Syn. Ins.*, I, 3, p.110, 1817) のシノニムとなる. だがコガネムシが日本で初めて記録されたのは上記の文献においてである. さらに Hope は 1839 年に *Euchlora* 属 (現在の *Anomala* 属) のモノグラフを発表した (*Proc. Zool. Soc. Lond.*, vii, pp.65-75, 1839). そのなかで 3 種の日本産を取扱っているが *M. splendens* (*Euchlora*) は中国からの記録とだけになっている (なお Hope は 1835 年の論文の中で Nepal 産の *M. splendens* なる種

を新種記載しているが、この種は現在 *M. heterochropus* BLANCH とされているようである。

その後 Motschulsky は日本から *Mimela Gaschkewitchii* なる新種を記載した (Etud. Ent., tome 9, P.15, 1860)。

1875年の Waterhouse の“日本の鰐角類について”という論文では *M. Gaschkewitchii*, *M. lucidula* 共に独立種と認めて記録された。前者には“Japan; in all the islands; the red variety note so common. Hakodadi (black variety)”と書いており、*lucidula* については Hope の記録の引用だけのようであった。

1876年には E. v. Harold は *M. Gaschkewitchii* を Hiogo から記録している (Abhandl. Nat. Ver. Bremen, V, P.127, 1876)。

新島、木下函博士も *M. lucidula* としてこのコガネムシを図説しておられる (1923)。 *M. gaschkewitchii*, *M. lucidula* がすべて *M. splendens* のシノニムとして取扱われたのは F. Ohaus が W. Junk Coleopt. Cat., Pars. 66, PP.131-132, 1918 においてである (したがって新島、木下函博士はこの文献を見ておられなかったのかも知れない)。

いわゆるコガネムシ科の代表の様な和名のうえ種名に素晴らしい意味を持つだけに大変光沢のある美しい種である。日本に広く産する普通種である (日本以外にも朝鮮、台湾、ウスリー、中国、ビルマ、トンキンあたりにも分布している)。

色彩の変化があるようで、赤紫色の *f. corusca* HEYDEN, 1887, 紫黒色の *f. takemurai* SAWANO et KOMETANI, 1939, 青味を帯びたもの *f. cyanicollis* OHAUS, 1915, 台湾から紫青色の *f. murasaki*, CHŪJŌ, 1940, と知られているが、兵庫県ではこの様な変化のものに出会っていない。

サクラ、クヌギなどの多くの広葉樹の葉を食べる。幼虫は土中で根を食べる。卵から成虫までの期間は1~2年といわれているが、普通種にしてはその生活史はほとんど報告されていない。

この *Mimela* 属並びに *Anomala* 属のふは前脛節の第1歯が短くて尖り、前跗節の内側の爪が中央で拡がり、尾節の後縁中央が湾入している。

産地：津名郡津名町大町〔堀田, 1974〕, 洲本市桑間〔堀田, 1974〕, 川辺郡猪名川町上阿古谷〔仲田, 1978〕, 川西市笹部, 見野, 大和〔仲田, 1978〕, 多田 (2♀♀, 19-VI-1938), Hiogo〔Heyden, 1879〕, 神戸市御影〔関, 1933〕, 灘弓ノ木 (2exs., 12-V-1959, 1ex., 10-VII-1959), 摩耶山〔増田, 橋本, 1941〕, 教育植物園 (2exs., 9-VII-1961), 二十歩 (2♂♂, 26-VI-1955), 烏原 (1♂, 26-VII-1938, 1♂, 14-VII-1938, 1♂, 2♀♀, 30-VI-1939, 2♂♂, 1♀, 18-VI-1939, 1♂, 1♀,

15-VI-1952, 2exs., 1-VII-1981), 箕谷 (1♀, 6-VI-1948), 藍那 (2exs., 27-VI-1978, 1ex., 14-VII-1978), 明石市明石公園 (1ex., 21-VI-1975), 高砂市伊保町〔森田, 1974〕, 加西市畑 (2exs., 29-VI-1974), 多可郡三谷 (1ex., 13-VII-1975), 揖保郡〔大上, 1901, 1907〕, 穴栗郡音水 (1ex., 16-VII-1972), 出石郡神美村〔北村, 1937〕, 但東町〔高橋, 1963, 1981〕, 城崎郡神鍋山〔原, 1938〕, 豊岡市福田〔高橋, 1975, 1981〕, 養父郡米ノ山 (1♀, 27-VII-1956, 1♀, 25-VII-1959), 〔伊賀, 1955, 高橋, 1959, 野村, 1976〕, 美方郡扇ノ山〔辻, 岸田, 1952, 高橋, 1981〕.

13 *Mimela takemurai* SAWADA, 1942 タケムラスジコガネ

本種は沢田博士によって南九州の霧島, 高千穂山産並びに祖母山, 若杉山, 四国の土佐池川町での産によって記載された。その後東京と愛知からも記録された (Otashibumi, 11(2), P.6, 1953).

前種ヒメスジコガネに非常に似た種である。♂交尾器は異なるが, 前・中脛節は普通銅緑色, 前跗節の外側の爪には切れこみがあり, 中脛節には密に毛がはえている。関東地方では稀であるが九州には少なくないとのこと。分布は本州, 四国, 九州である。

兵庫県では北部山地のみで記録されている。筆者もかなり注意して調べているが, 残念ながら今のところ採集できていない。分布がよくわからない種である。

産地: 城崎郡三川山〔高橋, 1981〕, 養父郡鉢伏山〔高橋, 1975, 1981〕, 美方郡扇ノ山〔鈴木, 湯浅, 1961, 多田, 畑中, 湯浅, 1961, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975, 1981〕.

14 *Anomala albopilosa* (HOPE, 1839) アオドウガネ

F.W.Hopeが, Leydenの友De Haanより送られた標本で, 産地は日本とのみで *Euchlora* 属で記載した種である (1839)。Waterhouse も日本とのみで記録した (1875)。

Heydenは1♀を Kiushiu から記録した (1879)。属名は *Anomala* (*Euchlora*) とされている。

Schönfeldt は日本産甲虫目録のなかで *Kiushiu*, *Hiogo* を産地に掲げている (1887)。

Arrow は *Anomala*, *Euchlora*, *Phyllopertha* の各属をはっきり区別することは困難であるとし, これらの属を全て *Anomala* 属として取扱った (*Mimela* 属は

認めている)(1913).

Reitterは大著 *Best.-Tab.* のなかで新亜属 *Euchronomala* を設立, さらに新亜種 *immarginata* を日本から命名した(1903). この種は新島, 木下函博士がその後本種を図説された際(1923), 区別する必要なしとされた.

沢田博士はこのグループの整理をされ, 本種についてもそれまでの研究をまとめられた(関西昆虫学会々報, 12(1), pp. 47-48, pl. ix, figs. 4, 14, 1942).

Medvedev は *Euchronomala* 亜属の種として扱っている(*Fauna U.S.S.R.*, 1949). 図説は野村氏のものがある(1963).

成虫は6月ごろから出現し, 葉上に見られる. 詳しい生活史はわかっていないが, ドウガネブイブイに似ているのではないかと考えられる.

分布は本州(西部), 四国, 九州, 種子島, 屋久島, 対島, トカラ中え島, 済州島, 朝鮮である.

♂の前脛節の先端の外歯は外方に向いてやや長く, その先端は鋭くない.

次のような亜種が知られる.

ssp. gracilis SCHÖNFELDT, 1890 アマミアオドウガネ, 奄美大島, トカラ諸島.

ssp. sakishimana NOMURA, 1964, 石垣島, 西表島, 宮古島, 波照間島.

ssp. yashiroi SAWADA, 1950 オキナワアオドウガネ, 沖縄, 宮古島, 石垣島.

ssp. yonaguniensis NOMURA, 1964, 与那国島.

兵庫県下では広く分布していて, 南部北部共海岸線ぞいに分布している種である. 個体数はそれほど多くないようである.

産地: 津名郡岩屋(♂♂, 2♀♀, 4-VII-1957), 洲本市安乎町〔堀田, 1959, 1974〕, 先山〔堀田, 1976〕, 山武牧場〔堀田, 1979〕, 川西市大和, 笹部〔仲田, 1978〕, 神戸市御影〔関, 1933〕, 摩耶山〔増田, 橋本, 1941〕, 鳥原(1♀, 3-XI-1976), 須磨〔北村, 1937〕, 西垂水〔鳥居, 1962〕, 明石市明石公園(1♀, 18-IX-1976, 1♀, 10-VII-1977, 1♂, 12-VII-1978), 飾磨郡 山(1♀, VII-1955), 赤穂市 天和(1ex, 25-IX-1974), 米上郡(1♂, 31-VII-1956), 〔山本, 1958〕, 出石郡神美村〔北村, 1937〕, 豊岡市大岡山〔高橋, 1975, 1981〕, 美方郡浜坂〔湯浅, 1960〕.

15 *Anomala costata* (HOPE, 1839) オオスジコガネ

本種はHopeにより China 産標本で記載された種である(*Proc. Zool. Lond.*, VII, p. 73, 1839).

Waterhouse は日本から記録し(1875), Heyden は Hiogo からの産を報じている(1879). 新島, 木下函博士は日本各地多数の産地を掲げて図説された.

Medvedev は *Rhombonyx costata* として扱っている (1949).

日本全土に産し、北米及び東中国にも分布する。色彩に変化がある。スジコガネによく似ているが上翅の内室の裏刻はやや疎で光沢がある。針葉樹の葉を食べる。幼虫は土中で根を食べ、1~2年で成虫となる。

この虫の生態については中島博士の報文に詳しい(北大農学部演習林研究報告, 16(1), 1952; 林野庁, 図説林業害虫としてのコガネムシ類, 1957)。針葉樹の害虫としてよく知られている。

兵庫県下では広く分布していると考えられるが、スジコガネより個体数は少ないようである。

産地: 洲本市安乎町〔堀田, 1974〕, 先山〔久松, 1974, 堀田, 1976〕, 川西市笹部〔仲田, 1978〕, Hiogo〔Heyden, 1879〕, 神戸市御影〔関, 1933〕, 六甲山(988, 6♀♀, 10-VII-1955), 摩耶山〔増田, 橋本, 1941〕, (388, 21-VII-1955), 再度山(388, 7-VII-1939), 烏原(388, 13-VII-1949, 1♂, 15-VII-1939), 山の街(488, 26-VI-1949, 1♀, 10-VII-1949), 藍那(1ex, 16-VII-1979), 須磨〔北村, 1937〕, 揖保郡〔大上, 1901, 1907〕, 穴栗郡音水(1ex, 16-VII-1972), 出石郡神美村〔北村, 1937〕, 但東町口藤〔高橋, 1963, 1981〕, 豊岡市福田〔高橋, 1975, 1981〕, 城崎郡神鍋山〔原, 1938〕, 三川山〔高橋, 1975, 1981〕, 養父郡米ノ山(1♂, 2-VIII-1953, 1♂, 25-VII-1955, 1♂, 13-VII-1954, 1♂, 12-VII-1955), 美方郡湯村(388, 2♀♀, 27-VII-1952), 扇ノ山〔湯浅, 1960, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1981〕。

16 *Anomala cuprea* (HOPE, 1839) ドウガネブイブイ

F.W.Hopeが日本から *Euchlora* 属の種として記載した(1839)。産地の記録はないが、Sieboldが Leyden の De Haan 教授から受取ったもので、*Cuprea* (銅色)と添付されていたのでこの名をつけたとある。Motschulsky も日本とのみで *Euchlora* 属で記録している(1860)。

Waterhouse は、産地は日本とだけであるが、“Appears in June, a fortnight later than *E. albopilosa*; both species do immense injury to foliage, and occur in the same localities in all the islands”と書いている(1875)。

Heyden は *Anomala* (*Euchlora*) として Mino, Hiogo, Echizen, Kioto, Kiushiu を産地に記録している(1879)。Arrow は *Anomala* で記録している(1913)。新島, 木下西博士は国内の多数の産地を挙げて図説をされた(1923)。沢田博士はこの類を整理されたなかに本種を取扱われた(1942)。Medvedev は *Anomala* 属の *Euchuronomala* 亜属に取扱っている(1949)。

兵庫県のスジコガネ

分布は樺太、千島、日本（北海道から屋久島まで）、朝鮮、満州、ウスリー
前脛節の外歯の末端のものは♂では細く尖り、♀は少し幅広い。

生態については湯浅、遠藤西氏の“日本産金龜子虫の幼期形態並びに生態、
第一報、ドウガネブイブイ”（農事試験場彙報、3(2), pp. 151-182, pl. 20, 21,
1938）に詳しく、その他に中島博士の報文（1952, 1957）あり、細辻、吉田氏
（芝生の病害虫と雑草、1979）、吉田、廿日出氏（芝草害虫に関する研究、
1981）の報文もある。

全国的に普通に産する種で、兵庫県下も例外でない。

産地：津名郡岩屋（2♂, 2♀♀, 4-VII-1957）、洲本市〔植村, 1938〕、安乎町〔
堀田, 1959〕、三熊山〔久松, 1974〕、先山〔堀田, 1976〕、川辺郡猪名川町上阿
古谷、日生ニュータウン〔仲田, 1978〕、三草山（1ex., 5-VII-1980）、川西市夕
田（1♂, 1♀, 19-IV-1938）、笹部、見野、大和〔仲田, 1978〕、宝塚市武田尾（1♀,
25-VII-1954）、西宮市岡田山〔前多他, 1974〕、摩耶山〔増田、橋本, 1941〕、（
2♂♂, 1♀, 21-VII-1955）、再度山（1♀, 2-X-1938）、鳥原（1♂, 2♀♀, 6-VII-1939,
2♀♀, 11-VI-1938, 1♀, 3-VIII-1938, 1♀, 3-VII-1938, 1♀, 25-VI-1938, 1♂, 22-VII-
1954）、山の街（2♂♂, 1♀, 11-VIII-1957）、箕谷（1♀, 25-VII-1942）、須磨（1♂, 6-
VII-1938）、垂水（2♂♂, 1♀, 2-VIII-1951, Ishida leg.）、藍那（1ex., 4-VII-1978）、
下谷上（1ex., 23-VIII-1979）、妙法寺（1ex., 23-VI-1979）、明石市明石公園（
1♀, 11-VII-1954, 1ex., 21-VI-1975）、高砂市伊保町〔藤田, 1974〕、加西市畑
（1ex., 29-VI-1974）、飾磨郡家島〔上田, 1981〕、揖保郡〔大上, 1901, 1907〕、
米上郡柏原〔山本, 1958〕、出石郡神美村〔北村, 1937〕、出石町丸中〔高橋,
1963, 1981〕、豊岡市福田、寿町〔高橋, 1975, 1981〕、養父郡大久保（1♂, 24-
VII-1955）、米ノ山〔高橋, 1981〕、美方郡西浜（1♂, 20-VIII-1953, Yamamoto leg.）。

17 *Anomala daimiana* HAROLD, 1877 サクラコガネ

E. v. Harold が Reinhold, Hilgendorf, Dönitz 各氏の日本で採集した甲虫類の研究
報告のなかで“Hakone, Hakodate - Dönitz & Nagasaki”産でもって記載した
（Deut. Ent. Zeit., XXI, Heft. II, p. 353, 1877）。

Schönfeldt は Kiushiu, Hiogo, Hakone - Geb., Hakodate, Nagasaki を産地に記録し
た（1887）。

Reitter はその大著 Best.-Tab. (51), p. 72, 1903 で本種を *A. geniculata* Mots. の
シノニムとしている（1903）。その後 Ohaus はこれを別種即ち本種に取扱った
（1915）。新島・木下両博士は日本各地の産地を入れて図説された（1952）。
分布は日本各地と朝鮮、中国である。

本種の生態については中島博士の報文(1952, 1957)に詳しく出ている。

サクラなどのバラ科をはじめ多くの広葉樹の葉を食べる。幼虫は土中で根を食べ、苗木などに害を与えることがある。1~2年で成虫になるようである。

兵庫県下でも比較的多く産する種である。

産地：津名郡津名町大町〔堀田, 1974〕, 洲本市安乎町〔堀田, 1959, 1974〕, 川西市多田(1♀, 22-VI-1942), 見野, 大和, 笹部〔仲田, 1978〕, 尾崎市鳴尾〔戸次, 1936〕, 神戸市御影〔関, 1933〕, 摩耶山〔増田, 橋本, 1941〕, 烏原(1♀, 11-VII-1939, 3♀♀, 13-VII-1939, 1♀, 15-VII-1939, 1♀, 16-VII-1939, 1♂, VI-1940, 1♂, 1♀, 6-VII-1941, 2♀♀, 10-VII-1941, 3♀♀, 2♀♀, 17-VI-1941, 1♂, 2♀♀, 29-VII-1941, 1ex., 23-VII-1972, 1ex., 10-VII-1973, 1ex., 19-VIII-1974, 1♀, 11-VII-1976, 1ex., 1-VII-1978), 須磨〔北村, 1937〕, 飾磨郡夢前町我孫子(5exs., 1-VII-1980), 揖保郡〔大上, 1907〕, 米上郡〔山本, 1958〕, 相原(1♀, 10-VII-1949, 1♀, 22-VII-1956), 出石郡神美村〔北村, 1937〕, 但東町佐々木〔高橋, 1963, 1981〕, 城崎郡神鍋山〔原, 1938〕, 森〔高橋, 1975〕, 豊岡市妙楽寺, 福田〔高橋, 1975, 1981〕, 養父郡米ノ山(1♂, 2-VIII-1953, 1♂, 27-VII-1954, 1♀, 12-VII-1955, 1♂, 1♀, 27-VII-1956, 1♂, 27-VII-1957, 1♂, 25-VII-1959)。

18 *Anomala geniculata* (Motschulsky, 1866) ヒメサクラコガネ

MotschulskyがJapanから*Rhinoplia*属で記載した種である(Bull. Mosc., i, p. 171, 1866)。その後WaterhouseもJapanを産地として記録している(1875)。新島・木下西博士は北海道、鹿児島、岡山産で図説された(1923)。Reitterがその大著のBest.-Tab., 51, p. 72, 1902 (1903)で朝鮮から記載し, Arrow(1913), 新島・木下西博士が日本から記録した(1923) *Anomala pleurimargo*なる種は本種のシノニムである。これらを含めて沢田博士はこの*geniculata*なる種の検討を発表されている(関西昆虫学会々報, 14(1), 1944)。

分布は日本各地で、奄美大島まで分布している。国外では朝鮮、中国にいる。本種の生態については桑山博士(コガネムシ類概説, 1939), 中島博士の報文(1952, 1957)がある。

兵庫県下には広く分布しているように思うのだが意外と個体数も少ないし、産地の記録もそれほど多くない。

産地：川西市笹部〔仲田, 1978〕, 芦屋市(1ex., 23-VI-1961, Kono leg.), 神戸市御影(1♂, 3-VIII-1938, Wada leg.), 摩耶山〔増田, 橋本, 1941〕, 烏原(1♂, 3-VIII-1968), 高取山(1♀, 23-VII-1959, Torii leg.), 須磨〔北村, 1937〕, 加古川

市内 (1♀, 9-VIII-1954, Ishida leg.), 米上郡成松 (1ex., 21-VII-1959, Takahashi leg.), 城崎郡大岡山 (1ex., 6-VIII-1973, Takahashi leg.), 美方郡諸寄 (1ex., 5-VIII-1958, Takahashi leg.), 湯村 (1♀, 19-VIII-1953, Yamamoto leg.), 城崎郡城崎〔高橋, 1979〕。

19 *Anomala japonica* ARROW, 1913 ヤマトアオドウガネ

Arrow により “S. Japan; Niigata; Korea; Hang-Kwo” を産地として記載された (Ann. Mag. Nat. Hist., (8) iii, P.401, 1913)。

沢田博士は朝鮮ソウル産で Kolbe が記載した *Euchlora cuprea* HOPE var. *viridana* をヤマトアオドウガネの学名に当てられた (関西昆虫学会々報, 12(1), 1942)。

分布は今のところ本州, 佐渡島, 四国, 九州, 五島列島である。伊豆諸島のうち八丈島, 八丈小島に在るのは *ssp. izuensis* (SAWADA, 1942), イズアオドウガネ, 御蔵, 三宅島に *f. mikura* NOMURA, 1969, 神津, 式根, 利島, 新島, 大島に *f. kozuana* NOMURA, 1969 がいる。

生態についての詳しい報告はないようであるがドウガネとかアオドウガネと同じような生活をしていると考えられる。

県下の記録が案外少ない。本種も海岸線ぞいにもっと分布していると考えられる。

産地: 川西市多田 (1♀, 19-V-1938), 明石市明石公園 (1♂, 19-VI-1976, 1♂, 16-VII-1976, 1♂, 7-VII-1979), 加古川市加古川 (3♀♀, 24-VII-1955, H. Ishida leg.), 米上郡〔山本, 1958〕,

20 *Anomala lucens* BALLION, 1871 “ツヤコガネ

本種は Ballion によって Japan 産で記載された (Bull. Mosc., P.155, 1871)。その後 Harold は “Nagasaki & Mohezi bei Tokyo, Hilgendorf leg.” を産地に記録した (1877)。Heyden は “Mino, Echizen, Kioto” を産地に示すと共に *lucidula* MORSCH, 1866 をシノニムとしている (1879)。Schönfeldt の “日本産甲虫目録” (1887) のなかでは “Hiogo, Echizen, Mino, Kioto, Nagasaki, Mohezi” を記録している。新島, 木下両博士はこれらの産地以外に北海道を中心に多くの産地のものを図説された (1923)。同時に *A. tokioensis* トウキョウコガネなる新種を東京産で発表した。この種は後に両博士によって *lucens* のシノニムとされ (1927) たが, 暫くの間トウキョウコガネなる和名は使用された時期がある。

本種は体色の変化が多く交尾器の変異もあつたりしてその同定にかなりの混乱があつた。沢田博士はこれらについて整理された (1944)。

本種は北海道、本州、四国、九州に分布している。北海道あたりではかなりの害を与えるようで“ヒメコガネと共にその幼虫が農作物及びカラマツ、トドマツ、エゾマツの苗木の根部を最も多く加害する種である”と報告されている(中島, 1952)。

生態については桑山博士(1937, 但し *A. geniculata* として記録されている), 中島博士(1952, 1957)の報文がある。

兵庫県下にも多くいるが, どちらかといえは県中央部から北に多いようである。

産地: 神戸市摩耶山〔増田, 橋本, 1941〕, 須磨〔北村, 1937〕, 多可郡三谷(22exs., 13-VII-1975), 朝来郡生野(1♀, 8-VII-1956), 穴乗郡波賀町水谷(9exs., 17-VII-1981), 豊岡市山本(1ex., 22-VI-1973, Takahashi leg.), 福田(1ex., 7-VII-1973, Takahashi leg.), 養父郡米ノ山(3♂♂, 2-VIII-1953, 1♂, 25-VII-1955, 1♀, 16-VII-1954, 1♀, 12-VII-1955, Yoshizaka leg., 1♂, 17-VIII-1955, Yamamoto leg., 1ex., 23-VII-1957, 1♂, 25-VII-1959), 美方郡湯村(1♂, 27-VII-1952, Yamamoto leg.).

21 *Anomala octiescostata* (BURMEISTER, 1844) ヒラタアオコガネ

Burmeisterにより Japan より *Phyllopertha* 属で記載された種である(*Handb. Ent.*, IV, P.243, 1844)。

Waterhouse は Japan “A common species ; it appears with the first warm days of spring.” と記録している。学名は *Ph. octocostata* となっている(1875)。Reitter の *Best.-Tab.*, (51), P.57, 1903 には *Anomala* (*Chrysoplethisa*) で Japan を記録している。

新島, 木下西博士は日本各地の産地を図説されている(1923)。

割合きれいな甲虫であり, 体の大きさからすればキスジコガネと同じぐらいで *Phyllopertha* 属のものと考えられていたこともわかるような気がする。

本州, 四国, 九州, 屋久島, 沖縄に分布していることになっていて, 本州では西部の方にいるとのこと。そのような分布からすれば南方系に近い種のようなのである。

兵庫県下の産地はあまり知られていない。しかしながら六甲山ゴルフ場付近では5月には非常に多いので, 出現期には普通にいる種ではないだろうか。

生態についての詳しい報告はないようである。

産地: 川西市壱部〔仲田, 1978〕, 神戸市六甲山(1♂, 2♀♀, 15-V-1954, 34♂♂, 37♀♀, 8-V-1955, 2♂♂, 1♀, 30-V-1961), 鳥原(1♀, 29-V-1942), 大池(1♂, 14-V-1961), 養父郡杉ヶ沢〔高橋, 1975, 1981〕。

22 *Anomala puncticollis* HAROLD, 1877 ハンノヒメコガネ

本種は Harold が Japan から記録した種である (Deut. Ent. Zeit., 21, P. 352, 1877).

Waterhouse は Motschulsky が *Heteroplia multistriata* として名付けた種を *Euchlora multistriata* MOTSCH. として "Japan, with the preceding, but not so common; Tsushima" として記録した (1875). Reitter は Best.-Tab., (51), P. 70, 1903 のなかで *Anomala* (s. str.) *multistriata* として記録し, *puncticollis* をシノニムとした. そして新島, 木下両博士もこの学名で日本各地の産と共に図説をされた (1923). その後日本では *A. multistriata* Mots. なる学名がハンノヒメコガネとして使用されていた. ところが中根博士は *multistriata* のタイプ標本を調べられてハンノヒメコガネとは全く異なる種であることを確められ, *puncticollis* を使用すべきと発表された (Bull. Nat. Sci. Mus., 15(2), 1972).

日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 三宅島, 石垣島に分布している. 生態についての詳しい報告は見られなかった. 6月ごろから出現し, 広葉樹の葉を食べる. 県下での分布はあまり知られていないが三木市の美嚢川川原で多く見られたし, 武庫川川原にも多いと聞いているので, 県下の河川沿いの地域を調べたら案外多くいる種かもしれない.

産地: 神戸市六甲山 (1♂, VI-1950), 須磨 [北村, 1937], 舞子 (2♂♂, VII-1939), 三木市美嚢川川原 (1♂, 2♀♀, 25-VI-1979, 3♂♂, 2♀♀, 6-VII-1979, 4♂♂, 4♀♀, 12-VII-1979, 1♂, 1♀, 19-VII-1979, 1♂, 1♀, 30-VII-1979), 氷上郡 [山本, 1958], 氷上町成松 (1ex., 19-VIII-1956), 大城 (1ex., 29-VII-1958), 柏原 (1♂, 23-V-1950, 1♀, 22-VII-1956), 出石郡出石町小人 [高橋, 1963, 1981].

23 *Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY, 1860 ヒメコガネ

Motschulsky が Japan より記載した種である (Etud. Ent., IX, P. 14, 1860). Waterhouse は "Japan; Tartary. Abundant on willows" と記録している (1875). 同時に *Rhombonyx lucidulus* を本種のシノニムに扱っているが, こちらは *A. lucens* のシノニムである. 次いで Harold は Hiogo から記録し, *lucidulus* と *lucens* 共に本種のシノニムとして扱っている (1895). 新島, 木下両博士は各地産で図説をされた (1923). ところで Harold は *rufocuprea* を日本から記録したと同時に *A. Motschulskyi* なる種を Nagasaki から新種記載した (1876). この種はその後 Ohaus (1915), Reitter (1903), Arrow (1913) の各氏も独立種として日本から記録し, 新島, 木下両博士は新たにハンノキコガネなる新称を与えられ

て図説された(1923).

沢田博士はこの面者を同一種として取扱うべきだとの見解に基づき *rufocuprea* なる種とされている.

この種には色彩の変化が大変多くややこしい. その内で次の2つの *forma* が一応区別出来る. 他にもかなり中間的なものもいる. 共に兵庫県下にもいる.

分布は大変広く、北海道から九州、トカラ諸島まで、対島、千島、朝鮮、樺太.

f. castanipennis OHAUS, 上下面暗青色をなし、上面栗色にして側縁黒褐色を呈す. Ohaus が横浜産の1♂で *var.* として記載した (*Stett. Ent. Zeit.*, P.320, 1915).

f. violacea OHAUS, 上下面共に一様に莖青色をなすもの. Ohaus は5♂, 5♀♀で *var.* として記載している (1915). 他に八丈島には *ssp. hachijoensis* NOMURA が知られている (*Entom. Rev. Japan*, 21(2), P.74, 1969).

兵庫県下にも非常に多くいる. 生態については桑山 (1937), 中島 (1952, 1957), 細辻, 吉田 (1977) 等により詳しく解説されている. 種々の植物を食害するようである.

産地: 津名郡岩屋 (2♀♀, 4-VIII-1957), 大町〔堀田, 1974〕, 洲本市安乎町〔堀田, 1974〕, 川西市猪名川町日生ニュータウン, 見野, 笹部, 横地〔仲田, 1978〕, Hiogo〔Heyden, 1879〕, 神戸市御影〔関, 1933, 伊賀, 1955〕, 六甲山 (3♂♂, 2♀♀, 27-VII-1939, 1♂, 24-VII-1938), 摩耶山〔増田, 橋本, 1941〕, 烏原 (1♂, 23-VII-1938, 1♀, 16-VII-1939, 1♀, 24-VII-1939, 1♀, 10-VIII-1940, 2♀♀, 18-VII-1941, 3♂♂, 2♀♀, 29-VII-1941, 4♂♂, 11♀♀, 25-VII-1948, 1♀, 1-VII-1981), 山の街 (3♂♂, 2♀♀, 19-VII-1959, 4♂♂, 9♀♀, 10-VII-1949, 1♂, 26-VII-1949, 1♂, 12-VII-1949, 2♀♀, 19-VII-1959, Tsukaguchi leg.), 箕谷 (24♂♂, 3♀♀, 31-VI-1948), 多井畑 (8♂♂, 11♀♀, 2-VIII-1941), 須磨 (1♂, 5-V-1938)〔北村, 1937〕, 鉢伏山 (1ex, 9-VIII-1975), 高砂市伊保町〔森田, 1974〕, 多可郡三谷 (3exs., 2-VIII-1975), 神崎郡大河内町川上 (1ex., 15-VI-1977, 1ex., 23-VII-1977), 揖保郡〔大上, 1901〕, 米上郡柏原〔山本, 1958〕, 出石郡神美村〔北村, 1939〕, 但東町口藤〔高橋, 1963, 1981〕, 豊岡市福田〔高橋, 1975, 1981〕, 養父郡米ノ山 (4♂♂, 3♀♀, 2-VIII-1953, 1♀, 27-VII-1952, 1♂, 24-VII-1954, 1♀, 25-VII-1955, 2♂♂, 27-VII-1956, 3♂♂, 1♀, 27-VII-1957, 3♂♂, 25-VII-1959), 〔高橋, 1959〕, 鉢伏山〔高橋, 1975, 1981〕, 美方郡扇ノ山〔高橋, 1939, 1981, 湯浅, 1960, 辻, 岸田, 1972〕.

f. violacea OHAUS

産地：神戸市布引（1♀, 20-VII-1952）、島原（1♂, 22-VII-1937, 1♂, 18-VI-1939, 1♂, 26-VII-1938, 1♀, 31-VII-1937, 7♀♀, 25-VII-1948）、箕谷（4♂♂, 8♀♀, 25-VII-1948）、山の街（1♂, 3♀♀, 10-VII-1949, 1♂, 19-VII-1959, 2♂♂, 19-VII-1959, Tsukaguchi leg.）、大池（1♀, 2-VIII-1940）、多井畑（4♀♀, 2-VIII-1941）、明石市明石公園（1♂, 16-VII-1976）、養父郡米ノ山（1♀, 2-VIII-1952, 1♀, 25-VII-1959）、美方郡湯村（1♀, 27-VII-1952）、

24 *Anomala schöenfeldti* OHAUS, 1915 チビサクラコガネ

Ohaus が Yokohama, Nagasaki 産で記載した種である（Stett. Ent. Zeit., LXXVII, P. 322, 1915）。一時シェーンフェルトコガネなる和名が使用されていたが、一般にはあまり知られていなかった。中根猛彦・八幡英夫両氏はこの種について詳しく報告された（Ent. World, 9(88), pp. 366-369, 1941）。

分布は本州、九州、伊豆大島、式根島、神津島、屋久島、朝鮮であるが、伊豆諸島の三宅島に産するものは *ssp. miyakensis* NOMURA（Entom. Rev. Japan, 19(2), P. 57, 1967）として別亜種にされている。

本種はゴルフ場の芝草を加害するようで、それに関連してその生態などについて細辻、吉田（1979）、吉田、廿日出（1981）の貴重な報文が出ている。

兵庫県下での記録はかつて筆者が報告した以外（兵庫生物, 5(3,4), 1967）記録がない。大阪府の千里では夜間電燈にかなり飛来するようで、そのうちの2頭を御恵送頂いている（2 exs., 18-VI-1972, H. Kono leg.）。恐らく兵庫県下にもいると思われるのだが、その後よく調べられていない種である。

産地：神戸市六甲山（1♂, 20-VI-1948）。

25 *Anomala testaceipes* (MOTSCHULSKY, 1860) スジコガネ

Motschulsky によって Japan より *Rhombonyx* 属で記載された（Etud. Ent., IX, P. 14, 1860）。Waterhouse は “Hakodadi; Nagasaki in July” と記録している（1875）。

Heyden も Hiogo, Kioto, Kiushiu を産地に挙げている（1879）。新島、木下両博士も多くの産地を挙げて図説された（1923）。

本種は普通に産する種でよく知られており、学名についてもあまり問題になることもなく現在に至っている。ただ色彩にかなり変化があるので、これらに対して Ohaus は多くの変種を記載している。

var. anocypria OHAUS, Stett. Ent. Zeit., LXXVI, P. 92, 1915. 上面美赤色、前胸背の側縁のみ黄色、下面青銅色にして黄色の脚部に暗色の長線があるもの。

高橋寿郎

var. cypriptera OHAUS, I.C. 上面銅綠色, 上翅銅赤色。前胸背の側縁, 尾節板, 後側板, 前側板は黄色。脚は黄色で暗金屬綠色の長線を有す。

var. ochrochalcon OHAUS, I.C., P.91. 上面美淡黄色で弱い綠色金屬光沢を有す。下面, 脚及び尾節板は黄褐色。

var. ochroptera OHAUS, I.C. 頭, 前胸背, 小楯板金屬綠色。頭楯の前縁, 前胸背の側縁及び上翅は淡黄にして緑黒金屬光沢を有す。腹部及び後胸褐色にして青銅光沢を有す。脚及びその基節淡黄にして金屬綠色の光沢を有す。

以上の変種を野村氏は *forma* として認めているが, これらの変化は中間型が存在し, 必ずしも明確に区別ができない。一応 *var. anocyprea*, *var. ochrocyprina* に分ける程度でよいのではないだろうか。

分布は北海道, 本州, 四国, 九州, トカラ諸島中ノ島, 対馬, 朝鮮, 満州, アムール, 東シベリアと広い。各種針葉樹を食害することが知られていて害虫としても取りあげられ, その生態についてもある程度のことは調べられているようである。

生態の報告では桑山博士(1937), 中島博士(1952, 1957)のものがある。

兵庫県下でも普通に産する種である。

産地: 洲本市安乎町〔堀田, 1959, 1974〕, 先山〔堀田, 1976〕, 三原郡論鶴羽山〔久松, 1974〕, 川辺郡猪名川日生ニュータウン〔仲田, 1978〕, 川西市見野, 大和花折橋付近, 笹部〔仲田, 1978〕, Hiogo〔Heyden, 1879〕, 神戸市摩耶山〔増田, 橋本, 1941〕, (1♀, 21-VII-1955), 鳥原(5♂♂, 14♀♀, 13-VII-1939, 1♂, VII-1937, 2♀♀, 10-VII-1939, 1♀, 15-VII-1939), 山の街(2exs., 19-VII-1959, Tsukaguchi leg.), 須磨〔北村, 1937〕, 妙法寺(2exs., 23-VI-1979), 加西市畑(3exs., 23-VI-1974, 7exs., 29-VI-1974), 多可郡鳥羽(1ex., 19-VII-1975), 飾磨郡家島〔上田, 1981〕, 米上郡〔山本, 1958〕, 豊岡市福田〔高橋, 1981〕, 城崎郡神鍋山〔原, 1938〕, 城崎〔高倉, 1979〕, 養父郡米ノ山(1♂, 1♀, 25-VII-1955, 1♂, 1♀, 27-VII-1954, 2♂♂, 25-VII-1959), 〔高橋, 1959〕, 美方郡扇ノ山〔辻, 岸田, 1972〕。

var. anocypria OHAUS

産地: 神戸市鳥原(2♂♂, 5♀♀, 13-VII-1939, 2♀♀, 5-VII-1939), 米上郡柏原(1♂, 22-VII-1952),

var. ochrocyprina OHAUS

産地: 神戸市鳥原(2♂♂, 2♀♀, 13-VIII-1939), 加西市畑(2exs., 29-VI-1974), 米上郡神楽(1♂, 12-VII-1952, Yamamoto leg.).

以上兵庫県産スジコガネ類2族7属25種を記録した。現在の日本産のこの

兵庫県のスジコガネ

仲間はず族9属58種15亜種であるから、それからすれば大変少ない。しかしながら本州産だけを取りあげると3族8属30種で、その大部分の種が本県下に産していることがわかる。本州に産して本県下に記録のない種は、ヤマトヨツバコガネ *Ohkubosus ferrieri* (Nonfried) f. *quadredentatus* (Sawada, 1938), イノウエスジコガネ *Mimera inouei* Nomura, 1967, チャイロコガネ *Anomala corplonta* Motschulsky, 1853, キンスジコガネ *A. holoserica japonica* (Motschulsky, 1952), オオサカスジコガネ *A. osakana* Sawada, 1942 の5種である。このうちチャイロコガネは日本にいるのかどうか大変疑問の種である(朝鮮, 蒙古, 中国北部あたりにいる種のように思われる)。オオサカスジコガネはあるいは分布しているのではないかと考えられる。他の3種は現時点で県下に産する可能性は低いように思われる。何れにしても本州産の大部分が県下に分布していることは大変嬉しい。今後更にきめ細い分布調査とその生態・生活史の解明が大切だと考えられる。

— |RATSUME 第8号の原稿を募集します—

送り先: 〒567 茨木市総持寺2丁目11-4 谷角素彦
締切: 昭和59年2月末日